

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 85
2023.5

TOPICS

1

馬建鋒教授(資源植物研)が地球の持続性に関する研究を 奨励する国際的な表彰「第1回Frontiers Planet Prize」を受賞



4月27日、本学資源植物科学研究所植物ストレス学グループの馬建鋒教授がスイスのモントルーで開催された「第1回Frontiers Planet Prize」の授与式において、地球規模の持続可能性研究の第一人者でもある環境学者ヨハン・ロックストローム審査委員長から、受賞メダルを授与されました。馬教授は、2022年にNature Foodに論文発表した「Duplication of a manganese /cadmium transporter gene reduces cadmium accumulation in rice grain」が高く評価され、今回の受賞となりました。

受賞を受けて馬教授は「今回は思いもよらず第1回Frontiers Planet Prizeを受賞することができ、大変光栄で、嬉しく思います。この研究は10年以上の月日がかかり、最近になってやっとイネのカドミウム低集積メカニズムの謎を解くことができました。多くの共同研究者のご協力に感謝し、この発見が今後カドミウムの少ない安全なイネ品種の育種に役立つことを心待ちにしております」と話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12106.html



TOPICS

2

令和5年度OUフェロシップ認定証授与式を挙行 ～我が国の科学 技術・イノベーション創出を担う若き研究者を全学体制で支援～

5月9日、「令和5年度岡山大学科学技術イノベーション創出フェロシップ認定証授与式」を行いました。

式では、那須保友学長から代表者に認定証が授与されました。那須学長は「本学では大学院博士後期・博士課程の学生のみなさんを学生ではなく、研究者の一員とみなし、挑戦的研究に取り組めるように研究環境を整備しています。認定を受けたみなさんも研究者としてさまざまなことが待ち受けていると思います。時代に対応しながら、我が国の科学技術・イノベーション創出を担う研究活動に日々邁進してください」と次世代を担う若手研究者らを激励しました。

本学は修士課程から博士後期課程に進学する優秀な人材の確保や将来の我が国の科学技術・イノベーション創出を担う博士後期課程学生の処遇向上とキャリアパスの支援を、全学的な戦略の下で一体として実施します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12117.html



Pick up!

ワクワクする未来に向け、ダイバーシティ農業ビジョン構築 ワークショップを開催



3月23日、本学が代表機関を務める「ダイバーシティ農業による地域イノベーション共創拠点」が、岡山大学附属図書館にてビジョン構築に向けたワークショップを開催しました。「ダイバーシティ農業がもたらすワクワクする未来とは」をテーマにしたグループワークでは「子供から大人、高齢者まで世代によって異なるロールモデルが活躍する多様性を支えるプラットフォームの構築」、「知識や能力、資金などの参入ハードルを下げながら価格決定力を持つ農業」、「ゆるやかなネットワークの中で多様な就農形態が実現できる農業」などのビジョン構築に向けたアイデアが示されました。

閉会にあたっては、林PLが「参加者のみなさんと思い描いたワクワクするビジョンについては、本事業に参加していただいている他の企業の方々や地域の農家のみなさんとの話し合いに活用し、ビジョンをさらに作りこんでいきたい」と締めくくりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12093.html



TOPICS

3

G7倉敷労働雇用大臣会合応援事業「私たちが創り上げる理想の働きVA(場)」～デジタル×レジリエンス×人財ウェルビーイング～を開催

5月14日、「G7倉敷労働雇用大臣会合応援事業『私たちが創り上げる理想の働きVA(場)』～デジタル×レジリエンス×人財ウェルビーイング～」を開催しました。本イベントは倉敷市で開催されたG7倉敷労働雇用大臣会合の応援・フォローアップを目的として実施し、厚生労働省医政局医事課医師等医療従事者働き方改革推進室の藤川葵室長補佐が「誰もが輝き、働きやすい医療現場を目指して～医師の働き方改革の目指す先から」と題して基調講演を行いました。

発表では、吉備中央町デジタル田園都市推進協議会アーキテクトを務める岡山大学病院産科・婦人科の牧尉太講師がデジタル田園健康特区での取り組みを紹介。続いてパネルディスカッションが行われ、ユース代表として喜舎場朝基さん(医学部5年・One Young Worldアンバサダー)、及び加藤優衣子さん(医学部3年・SDGsアンバサダーCopain)が、理想の働き場について意見を述べました。最後に「私たちが創り上げる理想の働きVA(場)宣言」が発表され、全員の拍手によって賛同されました。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12119.html

TOPICS

4

むくみを科学する先進リンパ学講座(形成外科)の品岡教授が、第31回日本医学会総会で『最優秀奨励賞(外科部門)』を受賞



むくみを科学する先進リンパ学講座(形成外科)の品岡玲教授が、第31回日本医学会総会において医学上、優れた業績を上げた若手研究者を顕彰する「日本医学会奨励賞」を受賞し、4月23日に東京で受賞者講演を行いました。さらに外科領域受賞者5人の中から、審査の上、最優秀奨励賞に選ばれました。

品岡教授はリンパ浮腫の画像診断に関して研究しており、未知であったリンパ系解剖を新たな光イメージング技術で明らかにし、リンパ浮腫分野における画像診断法の標準化を行うなど多大な功績を挙げたことが最優秀奨励賞受賞につながりました。

品岡教授は受賞を受け「我々の研究で正確なリンパ浮腫診断を届けられるようになったことがうれしい。研究をさらに進め治療にもつなげていきたい」と話しています。日本医学会奨励賞は、本邦医学会の若手研究者の振興を目的に日本医学会が設立しており、本学からの受賞者は初めてとなります。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12130.html

PRESS
RELEASE

睡眠中の歯ぎしりは食物繊維摂取量と関連している可能性を世界で初めて発見

岡山大学学術研究院医歯薬学域の外山直樹助教・江國大輔准教授・森田学教授(当時)およびノートルダム清心女子大学食品栄養学科の長濱統彦教授・小見山百絵准教授・山下美保准教授らの研究グループは、睡眠中に歯ぎしりをする大学生は食物繊維の摂取量が少ない傾向にあることを明らかにしました。睡眠中の歯ぎしりは口の健康に重大な悪影響を及ぼすことがあり、その対処はマウスピースによる歯の保護などが主流になっています。しかし、歯ぎしり自体を減らす根本的な治療法は見つかっていません。本研究結果は、睡眠中の歯ぎしりの新たな対処法の提案になるだけでなく、食物繊維摂取量改善にも寄与する可能性があります。

外山助教は、「本研究は新たな視点から睡眠の改善の可能性を示唆するものです。今後は食物繊維を摂取することで睡眠に良い影響を及ぼすかについて、検証していきたい」とコメントしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1093.html

